取扱説明書

ARCADIA

TRAXXシリーズ
125cc／150cc／200cc

****

はじめに

このたびは **ARCADIA** の製品を買い頂きまして誠に有難うございました。

この資料がお客様の手元に届いた時点から登録手続きを行えます。125CC のバイクはお客様所在地の区役所或いは市役所で登録することができます。登録後、コンビニ等で自賠責に加入していただき、自賠責シールをナンバーに貼って、ナンバー装着後すぐバイクを乗ることができます。150CC のバイクはお客様所在地の**所轄の車検場(運輸支局または自動車検査登録事務所)**で登録することができます。まず自賠責に加入していただき、その後登録を行ないます。登録後、自賠責シールをナンバーに貼って、ナンバー装着後すぐバイクを乗ることができます。
自賠責料金は一般下記の通りです。地方により変わる場合がありますのでご注意ください。

契約期間	1年（12月）	2年（24月）	3年（36月）	4年（48月）	5年（60月）
軽二輪（250cc まで）	8,620 円	12,080 円	15,470 円	18,790 円	22,050 円
原付（125cc まで）	6,960 円	8,790 円	10,580 円	12,340 円	14,070 円

本取扱説明書は TRAXX シリーズ の基本操作、日常点検、定期点検、日常のメンテナンス、部品交換、オイル交換などについて説明いたしております。これからバイクに乗り始めようとする貴方がより安全で楽しいバイクライフを送ることができる一助になれば幸いです。必ずお読み頂き、常に自分のバイクの状況を正確に把握し、日常点検を積極的に行い、あなたの安全運転のためにご利用ください。
本バイクは日本で買える部品を使用し、消耗品はほとんど国内のバイクショップで購入することができます。

この取り扱い説明書は TRAXX シリーズを主として作成してあります。仕様変更などにより、図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承願います。

安全運転のために:

自動車と違いバイクはライダーを守るボデイーなどを持たないため怪我をしないように交通ルールを厳重に守るほか、周囲の状況をよく把握し、危険な状況に陥らないようにしなければなりません。飲酒後のライデイングは大禁物！！！
出かける際に・・・

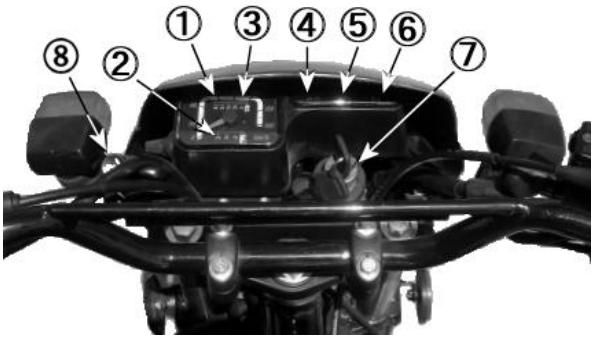
- ヘルメットを忘れずにかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。

使　用　説　明

①リアキャリア
②テールランプ
③シート
④燃料タンク
⑤スロットル
⑥バックミラー
⑦フロントブレーキオイルリザーバータンク
⑧ヘッドランプ
⑨エキゾーストマフラー
⑩リアドラムブレーキ
⑪パッセンジャーフットレスト（タンデムステップ）
⑫キックスターターアーム
⑬エンジン
⑭エキゾーストパイプ
⑮フロントディスクブレーキ
⑯フロントフェンダー

※この車両は主に公道向けに作られています。
　公道以外の荒地やサーキットなどの走行は、車体や付属部品に負担の掛からないように確認・注意を行ってください。

各部の名称とその機能



① オドメーター： 走行した総距離をKMの単位で示します。
② トリップメーター： リセット後に走行した距離をKMの単位で示します。
③ スピードメータ：メータの指針は現在の走行の速度を示します。
④ ターンシグナルランプ：ウインカー点滅時に点滅します。
⑤ ヘッドランプハイビーム： ヘッドランプのハイビーム点灯時に点灯します。
⑥ ニュートラルランプ：ギアがニュートラルの際に点灯します。
⑦ イグニションスイッチコンビ:車両の主電源およびハンドルロックができます。
⑧ チョークレバー：エンジンが冷えている際のエンジン始動に使用します。

各部品の機能

[イグニションスイッチ コンビ]

イグニションスイッチ コンビ⑦ はハンドル中央にあります。

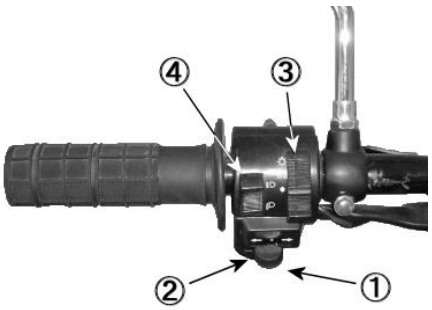
OFF：エンジン回路が切られ、エンジンがかかりません。キーは抜き出すことができます。
ON：エンジンが起動できる状態で、キーを抜き出すことができません。
LOCK： 回路が切られて、エンジンを回すことができません。 ハンドルもロックされ、動かない状態です。

[ハンドルロック]

ハンドルロックはイグニションスイッチ コンビにあります。
ハンドルを左へ切ります。そしてキーを押してロックの位置まで回します。ハンドルをロックします。

注意：車両から離れる時は盗難予防のためハンドルロックを必ずかけましょう。

[レフトスイッチコンビ]



① ホーンボタン
②フラッシャーパトロールランプスイッチ
③ ヘットライトスイッチ
④ ヘッドライトデイマースイッチ

[ホーンボタン]

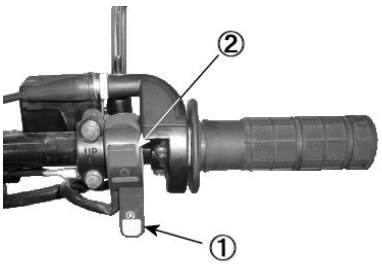
ホーンボタン ①を押しますと ホーン（警笛）が鳴ります。

［フラッシャパトロールランプスイッチ］
このスイッチ ②は三つの位置があります。
左折する時、このスイッチを “⇦”位置にします。左側の前部と後部のパイロットランプが点灯します。
右折する時、このスイッチを “⇨”位置にします。右側の前部と後部のパイロットランプが点灯します。
パイロットランプを消灯させるときは、スイッチを中央に戻してください。

［ヘットライトス　　イッチ］
このスイッチ ③　☼ ◎ ● はの 三つの位置があります。
●　ライト類は消灯しています。
◎　ポジションランプ、テールランプ、メータパネルのランプが点灯。
☼　ヘッドランプ、テールランプ、メータパネルのランプ点灯。

［ヘットライトデイマースイッチ］
このスイッチ ④はヘッドライトの光軸を切り替えます。
上側に押すとハイビーム、下側に押すとロービームとなります。

［ライトスイッチコンビ.］
① スターターボタン
② エンジンストップボタン



［スターターボタン］
スターターボタン ①は右のスイッチコンビにあります。
1. メインスイッチにキーを差し込み、 ON の位置に回します。
2. スターターボタンを押して､適当にスロットルを回してエンジンをかけます。

「エンジンストップ」
上側の赤いボタン押すとエンジン止まります。エンジンは起動できません。下側の小さい赤いボタンを押すとエンジンは起動できます。

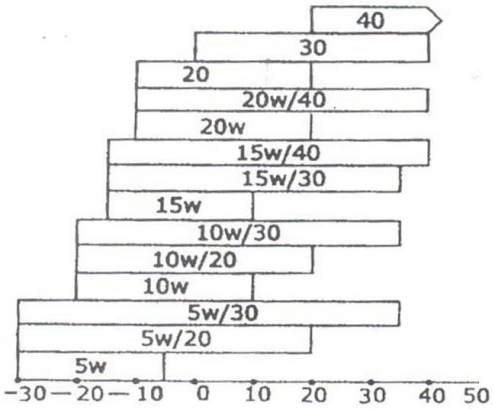
［燃料タンクキャップの開け閉め方］
燃料キャップの上のシャッターを回してキー穴を出します。キーを差込みキーを右に回して開けます。閉める際は燃料キャップの△マークを前方向にあわせて押し込んで閉めます。キーを左に回して抜き取ります。

注意：
●ガソリンの給油の時、エンジンを必ず止めて、メインスイッチキーを OFF の位置にしてください。
●火気を近づけないで下さい。また火気のそばではガソリンの給油やオイルの補給をしないで下さい。

●ガソリンはタンクの口もとまでいっぱいに入れないで下さい。走行中にガソリンがにじみ出て危険です。
●タンクの中にゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。
●タンクキャップは確実に閉めてください。確実にしまっていないともれることがあり危険です。
●車体、その近くにこぼさないで下さい。こぼした場合は直ちにふき取ってください。
●シート開閉時にイグニッションキーをシートボックス内に入れないでください。イグニッションキーを閉じ込めてしまう恐れがあります。

潤滑油の選択と使用について

潤滑油はエンジンの性能と寿命に関わる重要な要素です。オイルを切らしたまま走るとエンジンが壊れる原因となります。必ずオイル点検をしてください。本車両が出荷時注入したのは 10W/40SF　オイルです。他のオイルに交換する場合はクランクシャフトケース中のオイルを完全に抜いて、灯油できれいに洗浄してから新しい潤滑油を注油してください。



タイヤ

タイヤに空気圧が正しく入っていないとトラブル原因になります。空気圧が少なかったらガソリンスタンド等でお入れ下さい。

項目	データー
標準空気圧 (kPa)	フロント：　200kPa リア　　：　250kPa
タイヤサイズ	フロント：90/90-19-4PR リア　　：110/90-17-6PR

注意：お出かけ前に必ず点検してください。

- 金属の破片、釘、石など溝にかみ込んでいたら、必ず取り除いて走りましょう。
- タイヤにひびが入ったり、変形、凹んで破損していたらタイヤを交換しましょう。タイヤは通用品ですので国内のバイクショップで購入できます。
- 長期間放置していた場合、接地面が変形し偏磨耗や走行中に振動が発生する場合があります。このようなタイヤは正規の性能を発揮できず危険ですので、新品に交換してください。

タイヤ溝の深さが下記レベル以下になると牽引力、グリップ力が低下したり、安定性が悪くなったりしますので交換してください。

最　低　深　さ	
フロント：　　2.0㎜	リア：　　2.0㎜

注意:

上記最低深さは中国製タイヤの場合の判断数値です。日本製のタイヤは通常0.8㎜以上の深さが必要です。

●タイヤが補修や交換後、ホイールのバランス校正を行う必要があります。

●タイヤ補修後24時間以内は、走行速度は時速40キロを超えないようにお勧めします。

正しい取り扱い方

出かける前の点検を習慣づけましょう。

点検項目：

1、エンジンオイルは十分入っていますか。必要レベル以下になると補給してください。また漏れがあるかのチェックも必要です。

2、ガソリンが十分入っていますか。必要な場合早めに給油しましょう。
また漏れがあるかのチェックしてください。

3、前輪、後輪ブレーキのきき具合、遊びが大きすぎや小さすぎの場合、調整が必要です。

4、前、後タイヤの空気圧、磨耗状況の確認をしてください。

5、スロットルグリップの操作とそれに接続しているワイヤの状況をチェックします。必要あれば調整してください。

6、ヘットライト、テールランプ及びフラッシャが正しく点灯するか、ホーンは鳴るかをチェックしてください。

7、ステアリングの操作具合の点検、ステアリングを左右に動かし、引っ掛かったり、ゴリゴリとした感触があるかをチェックしてください。

8、前輪、後輪の軸、及びフロントフォークなどの部品の緩みがあるかのチェックしてください。

特別注意：

● 燃料ホースの劣化や亀裂以外にジョイントとホースの継ぎ目からも漏れが発生しますのでジョイントに緩みがあれば交換してください。

● ガソリンの給油の時、溢れないようにタンクの口元までいっぱいに入れないで下さい。

●火花の原因での事故を発生しないようにイグニションコイルから点火プラグまでの間の電気部品が良く接続しなければなりません

エンジン始動

注意： 屋内など空気の流れが悪いところでエンジンをかけばなししないで下さい。

［準備］

メインスイッチキーをメインスイッチに差し込み、そしてONの位置に回します。ニュートラルランプが点灯していることを確認します。点灯していない場合にはギアが入っていますので、クラッチを握り、ギアシフトを操作してニュートラルに入れてください。

※ ギアが入っている際にエンジン始動する場合は、クラッチレバーを握ってスターターボタンを押します。（ギアが入っている状態でクラッチレバーを握らないとセルモーターは回りません）

［スタート］

スタンドを立てて、チョークレバーを引きます。チョークレバーを引く量は、寒い日は多めに引き、暖かい日は少しだけ引きます。スロットルを開けずにスターターボタンを押してエンジン起動します。

チョークレバーを引く量が少ない場合には、わずかにスロットルを開けてスターターボタンを押してエンジンを起動します。

エンジンの暖気が完了したら、チョークレバーを押し戻します。

注意：

1、スターターボタンを1-3秒押して速やかに離します。スターターボタンを長く押し過ぎるとバッテリの電気が早く消費してしまいます。

2、エンジンがかかったら手を早くスターターボタンから離してください。

3、エンジンが連続回っている時スターターボタンを絶対押さないで下さい。エンジンが破損する恐れがあります。

4、連続3回エンジンがかかなかった場合、足でキックペダルを使用してかけてください。そうしないとバッテリの電気が早く消耗され、バッテリの寿命が短くなります。

エンジンの慣らし運転

新車の慣らし運転距離は1000キロです。この初期の1000キロはエンジンの性能と寿命にとってとても重要ですので慣らし運転期間中エンジンの使用回転数を抑えて走行すること。各部品と周辺部とのなじみをよくすることを目的に、時速60キロ以下にコントロールし、連続運転時間は2時間以内にしてください。

また、各部のネジにゆるみがないか点検してください。ネジにゆるみがある場合には増し締めを行ってください。

注意：

慣らし運転終了後には先ずエンジンオイルを交換し、オイルフィルターを洗浄します。同時にメインテナンススケジュール表に基づいて1回点検を行ってください。そうすると愛車を何時までもいい状態に保ち、良好な性能と長持ちさせることができます。

上手な乗り方

[起動]

正常に運転するためエンジンを予熱する。

1. エンジンをアイドル状態で二分間くらい暖めます。
2. エンジンの回転数を徐々に上げます。
3. 安定な運転状態になってから乗りましょう。
4. ブレーキは前後輪とも同時にかけます。車輪のブレーキ効果が出るようにしっかりコントロールし、力強く操作しないで下さい。

[安全運転指導]

減速或は停車する時、先ずスロットルを閉じてから前輪、後輪のブレーキをかけます。急ブレーキの時、安定的に後輪、前輪順番でブレーキをかけましょう。濡れた路面でのブレーキングは非常に難しいです。急ブレーキを掛けるとスリップ或は転倒などの事故につながります。悪天候での走行を行う場合、急激な操作を控え、ゆっくりブレーキを掛け、よりスムーズに停車してください。

カーブは曲がりの時、手前でスロットルグリップを戻し、それと同時にブレーキを掛けスピードを落とします。曲がりながらのスロットル操作や、急ブレーキは、コントロールし切れず、スリップ或は転倒してしまうことになります。

雨の日や路面がぬれている時は、全ての操作をスムーズに行ってください。急激な加速、急ブレーキ、急ハンドル、カーブでの無理な速度はコントロールが失われる原因になりますのでなるべく避けてください。

止まっている車の横を通るとき､急にドアが開くことがあるので注意してください。

路上にある鉄板、レールなど、その上を走る場合滑りやすいので、スピードを落として地面と垂直になったスタイルで走行してください。又危険な場所での発進には十分に注意し、特に後方の車に注意してください。

洗車の時ブレーキシューを濡らす可能性がありますので、始動する前にブレーキシステム全体をチェックしてください。

法定速度を守ってください。追い越しはバランスが崩され、コントロールしにくいので控えてください。

[駐車]

スロットルグリップを徐々に戻して、スピードを落とし、フロント、リアブレーキを柔軟的に掛け、スムーズに停車します。メインスイッチキーをロック位置に回し、スタンドを立てて駐車します。

[パッセンジャーフットレスト（タンデムステップ）]

二人乗りする際に折りたたみ式のパッセンジャーフットレストを引き出して使用します。このフットレストは体重を掛けられる構造ではありません。スタンディングでの使用は避けるようにしてください。

メインテナンスとサービス

メインテナンス日程表

下記日程表に基づいて定期的にメインテナンス点検を行ってください。点検する前に車をきれいに清掃してください。

表の中の各記号の意味は下記の通りです。

I:検査. C: 洗浄、清掃. R: 交換. A: 調整.

NOTE:

① 埃の多いところで走る場合、時々エアークリナーを清掃し、オイルを交換してください。

② 走行した総距離数がオドメーターの最高数値を超えた場合、点検、メインテナンスは日程表の規定距離通りに繰り返して行う。

③ タイミングチエンにはたわみがある場合、必ず専用の工具で取り扱い説明書の通りに調整してください。

項目＼頻度		定期点検	オドメーター数値 (km)				
			1000	4000	8000	12000	Note
*	燃料系回路			I	I	I	
*	スロットル操作システム		I	I	I	I	
*	キャブレターアイドル		I	I	I	I	
	エアフィルター	注意 1	C	I	R	I	
	スパークプラグ		I	I	R	I	
	エンジンオイル	毎年 R	300km, 600km, 1000km R, then every 2000km R				
	オイルフィルタメッシュ	毎年 R				C	
*	フロントブレーキシステム		I	I	I	I	
*	ブレーキホース			I	I	I	
		４年毎に R					
*	ブレーキオイル			I	I	I	
		２年ごとに R					
*	リャーブレーキシステム		I	I	I	I	
	ブレーキシューの磨耗		I	I	I	I	
*	前/後　ライトスイッチ		I	I	I	I	
*	バッテリ	毎月	I	I	I	I	
*	ヘットライト		I	I	I	I	
*	サスペンション		I	I	I	I	
*	ナット，ボルト，締め付け部品		I	I	I	I	
* *	ホイール/タイヤ		I	I	I	I	

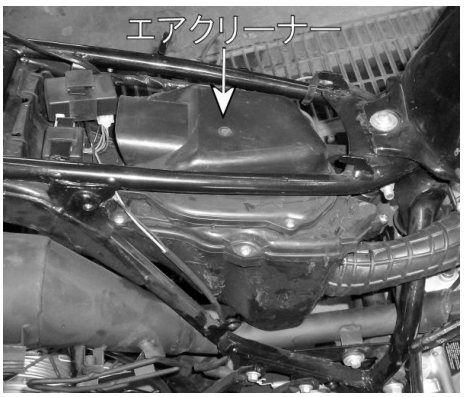
スパークプラグの選択と交換

[TRAXX のスパークプラグは下記の型番です]
型番： LG D8RTC　（NGK　DR8EA 相当）

[スパークプラグの検査と交換]

- スパークプラグのキャップを取り外して、周囲の汚れを清掃して、工具袋の中に入っているプラグ用ソケットレンチでスパークプラグを外します。金属ブラシでスパークプラグの滓とごみを清掃し、破損があるかどうか、電極の間に焼き屑があれば交換してください。できればプラグを外してバイクショップに持って行って形同じ物を普通に使えます。
- 隙間ゲージでスパークプラグ電極 ①の隙間を検査し、0.6-0.7㎜に調整してください。
- スパークプラグのシーリングパットの状態がいいかどうかをチェックします。
- スパークプラグを正確に組み付けるために、先ず手でプラグをしっかり回して、それからソケットレンチで締め付けてください。

エアークリナーの清掃と組み立て



- 1000 キロメートル走ったらエアークリナーを 1 回清掃してください。埃の多い地域で走行した場合更にときとき清掃する必要があります。
- エアークリナーを清潔に保つのはエンジンの正常運転の不可欠の条件です。
- エアークリナーは紙エレメントで構成されています。
  先ずサイドカバーを外し、シートを外します。
  エアクリーナーキャップにあるスクリューとフィルターエレメントのスクリューを外します。それからフィルターエレメントを取り外します。
- 圧縮空気で紙エレメントの埃を吹きとります。エレメントが酷く汚れた場合、或は破損、亀裂がある場合交換してください。また布でエアークリーナーケース内面の埃などの汚れを拭いてください。
- 組立は上記逆順番で行ってください。

注意：

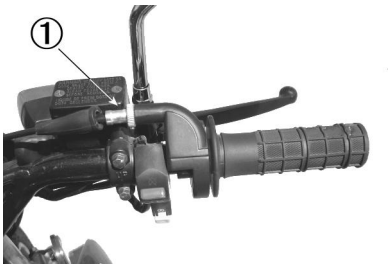
エンジンの良好な性能を保つために走行距離 8000 キロメートル毎に定期的にエレメントを交換してください。埃の多い地域で走行した場合エレメントの交換を前倒しに行ってください。

スロットルの検査と調整

［スロットルのワイヤの検査］

スロットルグリップが全開位置から全閉位置までの回りが円滑にできるかをチェックします。スロットルグリップからキャブレーターまでの間のワイヤに線切れがあるかどうか、取り付け角に無理があるかなどを確認します。不具合があれば新品ワイヤへの交換をするか、改めて配線することになります。

［スロットルグリップのフリーストロークの調整］



スロットルグリップのアイドルのフリーストロークは 2-6mm です。調整が必要な場合、先ずロックナットに被せてあるゴムをずらします。 ①を緩めて、回して調整します。

キャブレーターのアイドルスピードの調整

● エンジンを起動して温めます。それからアイドルスピードの調整を行います。

●アイドルスクリュー②を調整し、アイドルスピードを約 1500±100rpm に設定します。スクリューを時計方向に回すとアイドルスピードが上昇します。反時計方向に回すとアイドルスピードが降下します。通常出荷の時にメーカーがこのスクリューを調整しましたので、アイドルを調整する必要がありません。

エンジンの潤滑油の確認と交換

[オイルのレベルの確認]

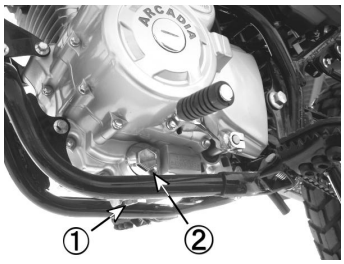
1. 毎日出かける前にエンジンオイルのレベルを確認してください。オイルレベルは右のクランクケースにあるオイルレベル確認窓で確認します。

2. 車体を垂直に立ててオイルレベル確認窓を見ます。窓にオイル面があれば正常です。
オイルが見えない場合には不足しており、オイルしか見えない場合にはオイルが多い状態となります。

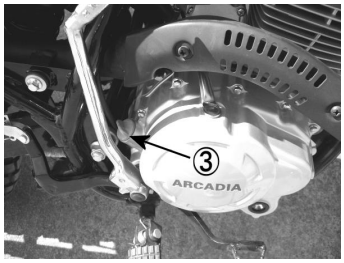
3. オイルが多い場合には、正常になるようにオイルを抜き取ります。不足している場合には 10w/40SF 級のエンジンオイルをオイルレベル確認窓からオイル面が見える程度に補充します。

注意：オイルを切れしたまま走ると、エンジンが壊れる原因となりますので、必ずオイルの点検をしてください。

［エンジンオイルの交換］



1: エンジンを温めます。（予熱する）
2: スタンドを立て， 空のオイル受け皿をエンジンの下に置く。オイルドレンボルト①を開けます。オイルを完全に抜き出すためにキックスターターを数回踏みます。灯油で洗浄します。
3:オイルフィルターキャップ②を外し、オイルフィルターを抜き取り洗浄します。
4: オイルドレンボルト①、オイルフィルターキャップ②のシール面などに傷がないかチェックします。



5: オイルドレンボルト①、オイルフィルターキャップ②を取り付け、注油口③から約 850ml の 10w/40SF 4 サイクル専用オイルを注油します。
車両を垂直に立てた状態でオイルレベル確認窓を確認します。オイルレベル確認窓にオイル上面が確認できれば適量となります。油漏れがあるかどうかをチェックします。

注意：
埃の多いとこで走る場合オイル交換とフィルター洗浄回数を増やしてください。

ブレーキシステムの検査と調整

［ フロントブレーキのチェックと調整］

●ブレーキはライダーの安全にとって非常に重要な部品ですので頻繁にチェックする必要があります。
●フロントブレーキはオイルの圧力を利用して作動させるデイスクブレーキです。安全のためオイルホースとブレーキオイルの交換はメインテナンススケジュール表の規定期間内に行わなければなりません。又次の項目のチェックを常に注意しなければなりません。
１．オイルホースに油漏れと破損があるか
２．ブレーキシューの磨耗.
３．ブレーキレバーの効き具合
● 新品のブレーキシューに交換したばかりの車はすぐ乗らないで下さい。先ずブレーキレバーを数回握って放してブレーキシューを十分馴染ませて、ブレーキオイルを確実に循環させてから乗ってください。

注意：
●この車両はアルコール系のブレーキオイルを使用しています。その他のシリコン系或は石油系を混入してはいけません。ブレーキシステムの破損になりますので十分注意してください。古いブレーキオイルは水分を吸収しますので、蓋の開いたままの容器の中に貯蔵したブレーキオイル、前回残ったブレーキオイルを使用してはいけません。 DOT4 ブレーキオイルだけ使用してください。
● ブレーキオイルは腐食性がありますので、塗装、プラスチックに溢さないで下さい。

●ブレーキオイルは有害物質ですので、誤って呑んだり、目に入ったり、皮膚に付いた場合速やかに病院に行って、お医者さんの指導の下で治療、処置してください。

●ブレーキシリンダーの中のブレーキオイルの液面位置を時々チェックしてください。液面が低くなったら適量補給してください。ブレーキシューが磨耗されるとブレーキオイルがオイルホースに流れますので液面が低くなります。ブレーキオイルの補給は定期点検の重要な項目です。

●ブレーキオイルの液面及びその他の状況も正常で、ブレーキが正常に作動しない場合,ブレーキオイルの中に空気が入っている可能性があります。 その場合にはブレーキホース内のエア抜きを行います。空気抜きスクリューを緩めて,ブレーキレバーをゆっくり握ってオイル中の空気を排出します。空気の泡が出ないまで、握ってください。そらから空気抜きスクリューを戻します。
ブレーキは重要部位です。ブレーキのエア抜き作業は専門の作業者に依頼してください。

［リアブレーキのチェックと調整］
リアブレーキはワイヤーケーブルにより作動させるドラムブレーキです。
チェック及び調整は、リアホイール側の調整ネジによって行ないます。

●付属工具

この工具キットは走行中の簡単な修理、調整、部品の交換などの時に準備したのです。 下記の工具が入っています。
① スパークプラグスリーブ
② “-”/ “+” スクリュードライバ
③ スクリュードライバのハンドル
④ ツールバッグ

●バッテリの点検
この車両の直流電源は 12V7A.h バッテリを使用しています。

注意：
1. 長期間走行しない場合、放電と漏電を減少するためにバイクからバッテリを外してください。外す時は必ず‘－’電極の配線から外します。充電後風通しの良く、光のないところに保存します。バイクの中に保存する場合、‘－’電極の配線を外してください。
2. 定期的にバッテリを外してその‘＋’‘－’電極のターミナルを清掃してください。戻す時、先に‘＋’ 電極の配線を接続し、次に‘－’電極の配線を接続します。そして‘＋’‘－’電極のターミナルが確実に接続したことをチェックしてください。
3. バッテリを交換する時、同規格のバッテリと交換してください。

●車の清掃

★ バイクの外観をきれいに保つため定期的に清掃し、そして破損、磨耗、油漏れの有無をチェックします。

★清掃の時バイクを破損しないように下記の部位への高圧水の噴きつけを避けてください。

★イグニションスイッチ，電気スイッチ，メーター類，ホイールドラム、マフラーの出口及びオイルタンクの下部

1：清掃後、大量の清潔な水で全面的洗浄してください。

2：きれいに水を拭き取ってエンジンを起動して数分間回転させます。

3：道路に入る前にブレーキを掛けてみて正常に効くかどうかチェックしてください。

注意：洗浄されたばかりのバイクはブレーキ性能が低下する可能性があります。

車の保管

● 屋外に駐車される場合は、ボデイーカバーを掛けましょう。

●長期間カバーを掛けたままにするときは、ときときカバーを外して車両を乾燥させましょう。

1、保管する時スクーターを洗浄し、水を拭き取ってクリームをつけてください。

2、燃料タンクとキャブレターの中のガソリンを出してください。そしてタンクの中に防製剤を入れてください。

3、スパークプラグを外してシリンダーに潤滑油（エンジンオイル）を少(15-20ml)注入してください。イグニションスイッチ（メインスイッチ）を OFF にして、キックスターターを数回操作してオイルを均一に分布させます。
そしてスパークプラグをつけてください。

4、バッテリを外して、乾燥、風通しのいいところに保管し、日光直射を避けてください。

注意：バッテリを外す時、先ず‘－’電極の配線を外します。その次‘＋’ 電極の配線を外してください。戻す時、先に‘＋’電極の配線を固定し、その次‘－’電極の配線を固定します。そしてイグニションスイッチ（メインスイッチ）を OFF にしてください。

5、タイヤに規定の空気圧を充填し、そしてスクーターを敷板の上に置きます。

6、布質或は通気性のいいカバーを掛け、日光直射を避けて、風通しのいいところに保管してください。

再使用のとき

１、車両を清掃し、バッテリの電圧をチェックしてください。12V 以下の場合、充電する必要があります。

２、タンクの中の防製剤を除去し、新しい燃料を入れてください。

３、すべての灯火正常している確認してください。

４、運転前の点検を行ってください。安全なところで試乗して性能が正常かどうか確認してください。

TRAXX シリーズの主要技術データ

項目	技術データ
寸法 L × W × H ホイールベース 最低地上高 乾燥重量 グロスウェート ホイールトラベル　フロント リア	 2090mm × 790mm × 1150mm 1365mm 290mm 124kg 150kg 180mm 180mm
タイヤ フロント リア	 90/90-19-4PR　　200kpa 110/90-17-6PR　　250kpa
エンジン シリンダーの容積 圧縮比 アイドルスピード スターテイングモード ドライブ　フォーム エンジン潤滑油 潤滑油量 燃料タンク容量 スパークプラグ スパークプラグクリアランス	単気筒 4 サイクル、空冷、ガソリンエンジン 124.6ml / 148.6ml /198ml 9.0:1 1300±150r/min 電気/キックスターター チェン ドライブ　(428-130) SAE10W/40SF 1.0L（オーバーホール時、交換時は 0.85L） 12L LG D8RTC　(NGK　DR8EA 相当) 0.6-0.7mm
電気装置 イグニション ヘットライト ターンシグナルライト ストップライト/テールランプ バッテリ オーバーカレントプロテクター	 CDI electronic ignition 12V35W/35W 12V10W 12V21W/5W×2 12V6A.h 12V 10A

弊社のホームページをご存知ですか？

弊社ではホームページにて様々なご案内を行っております。
FALCONの紹介、メンテナンスのやり方、トラブル事例など・・・購入後にお役立てください。
http://www.arcadia-tokyo.jp/falcon/index.html
部品発注のご案内も行っております。
初期不良、お問い合わせもこちらをご覧いただき、メールにてご連絡ください。